

今吉標本 (II)

豊 遙 秋 (地質部) 奥 山 康 子 (燃料部)

Michiaki BUNNO

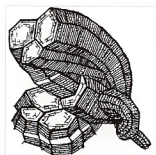
Yasuko OKUYAMA

坂 巻 幸 雄 (鉱床部)

Yukio SAKAMAKI

昭和14年(1939年)7月 今吉隆治氏は当時日東紡績株式会社の技術者として 現在の中華人民共和国山西省で地下資源調査を行った。大同炭田で露頭調査を行い 調査地域の下部カンブリア系の頁岩の表面に塩の仮晶を発見して日本へ持ち帰った。この標本とともにセピア色になった大同炭田の露頭写真 スケッチ 図面等が数葉添えられており詳細なメモも残されている。

当時中国から国外へ標本 特に資源的なものを持ち出すことは事実上不可能にひとしく唯一氏が手荷物にまぎらせて持ち帰ったこの標本等数点が氏の中国の調査の貴重な記念となっている。



← 高陵土(カオリン)結晶のスケッチ



→ 写真1

大同炭田金山寺露頭の写真 黒色の炭層は30メートルにも達し、夾在する白色部分は高陵土(カオリン)であるとメモが残されている。また「カオリン結晶のスケッチ」(上図)が付されているが コレクションの中には現物は見出されていない。カオリンの肉眼的な自形結晶を示す標本は大変珍しいものである。(サイズ不明)。



← 写真2

中華人民共和国山西省大同産 岩塩の仮晶 (Pseudomorph after rock salt) (GSJ M 16713) : 赤色頁岩の表面に立方体の結晶形を示す岩塩の仮晶、岩塩の結晶にしばしば見られる微晶もよく残されている。鹹湖に沈殿・結晶したものが後に溶解して雛型を残し、これに砂泥が充填したものと考えられる。(×1/2)。



←

写真3

岩手県興田(オキタ)産 鋼玉(Corundum Al_2O_3 三方晶系)(GSJ M 16714)接触變成岩中に暗青色六角板状結晶をなす。微小な結晶にはsapphire blueの透明なものも見られる。(×1/2)。



←

写真4

山梨県乙女館山産 水晶(Rock crystal SiO_2 三方晶系)(GSJ M 16638)ヘグマタイト性石英脈に産し日本式双晶をなすもの、2つの結晶軸は $184^{\circ}34'$ で交っており 世界的にも大型で美しい双晶を我国で特に多く産することから「日本式双晶」の名称が与えられた。(×1)。



←

写真5

栃木県富井鉱山産 紫水晶(Amethyst SiO_2 三方晶系)(GSJ M 16715) 浅熱水性鉱脈鉱床に脈石として産する。四角柱状のヌケガラは重晶石の溶脱したものと考えられている。(×2/3)。



←

写真6

島根県松代鉱山産 霏石(Aragonite CaCO_3 斜方晶系)(GSJ M 16712) 黒鉱鉱床の母岩の粘土中に産する。貫入三連晶による六角柱状結晶の放射状集合をなすもの。(×1)。



写真7 北海道特山鉱山産 重晶石(BaSO₄ 斜方晶系)(GSJ M 16716)
 浅熱水性網状脈鉱床の主成分として産する。淡青色板状結晶をなす。(×2/3)。



写真8

北海道小樽松合鉱山産 緑鉛
 鉱(Pyromorphite Pb₅(PO₄
 AsO₄)₃Cl 六方晶系)(GSJ
 M 16717) 浅熱水性重晶石
 鉱床の割目に生成するもの、
 六角柱状結晶をなす、組成
 的にはミメット鉱成分を含
 んでおりミメット鉱とも
 共生する。(×1)。